

「六甲山森林整備戦略策定」の背景

1. 神戸市における「六甲山」

(1) 六甲山について

- ・六甲山は、神戸の街の個性を特徴づける山である。海側の市街地背後に迫る六甲山の緑は、神戸の都市景観構成上欠くことのできない存在であり、市民の保健やレクリエーションに資するのはもちろん、気候の緩和など街にとっても大きな役割を果たしている。
- ・江戸時代以降の過剰な利用によって、大きな森林資源が失われたこと、それに対する反省として 20 世紀の初めから植林が行われ、今日の豊かな森とすることができた。

(2) 六甲山に対する市民の意識

- ・平成 22 年度に実施した「市政アドバイザー意識調査」の結果では、六甲山に対する神戸市民意識は高いことが伺える。

- ・市政アドバイザー意識調査について

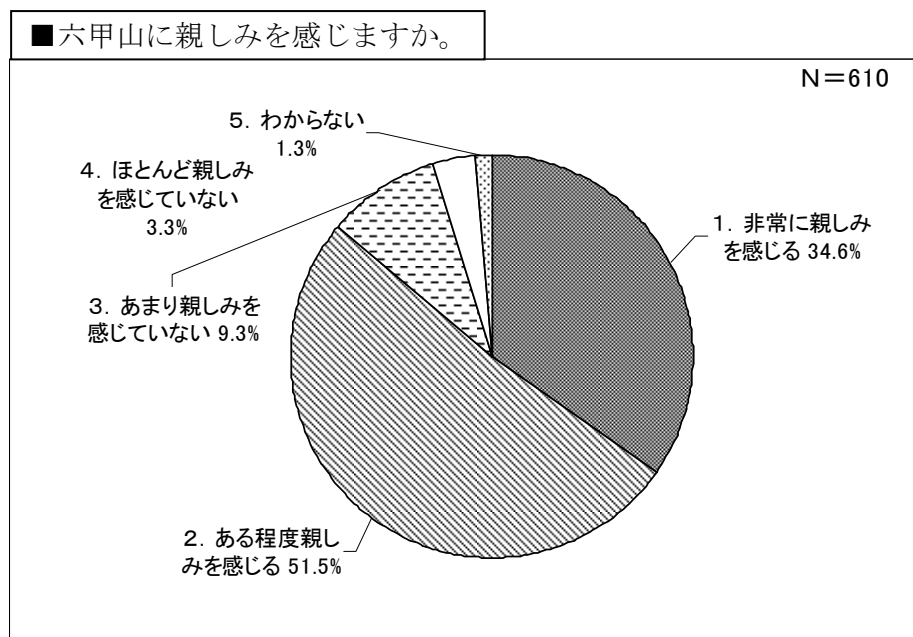
①市政アドバイザー制度について

市民の皆様の声を直接市政に反映させていくため、平成 2 年度より実施
 外国籍の方を含め 20 歳以上の市民から無作為に選出した約 1,000 名の協力により、アンケートへの回答やセミナー・施設見学会への参加を通じて市政に対する意見を伺う制度

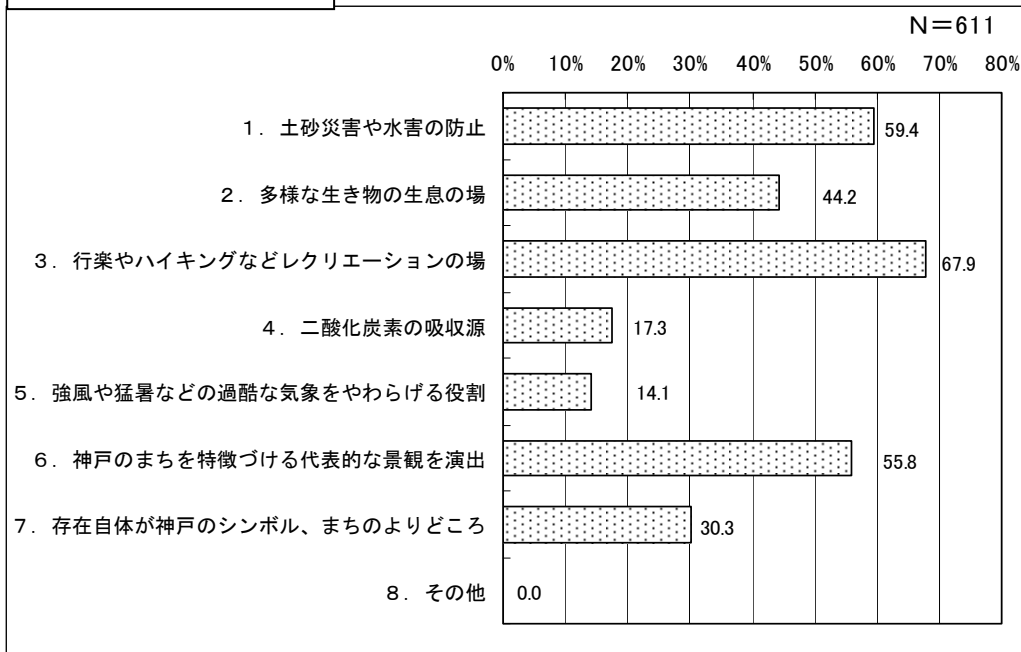
②調査概要

- ・調査期間：平成 22 年 11 月 1 日～11 月 16 日
- ・調査内容：六甲山の整備について
- ・調査目的：「六甲山に対する意識」や「森林の整備に対する考え」を聞き、今後の施策の参考とする
- ・調査対象：第 10 期市政アドバイザー：1,078 名
- ・回収数：619 通
- ・回収率：57.4%

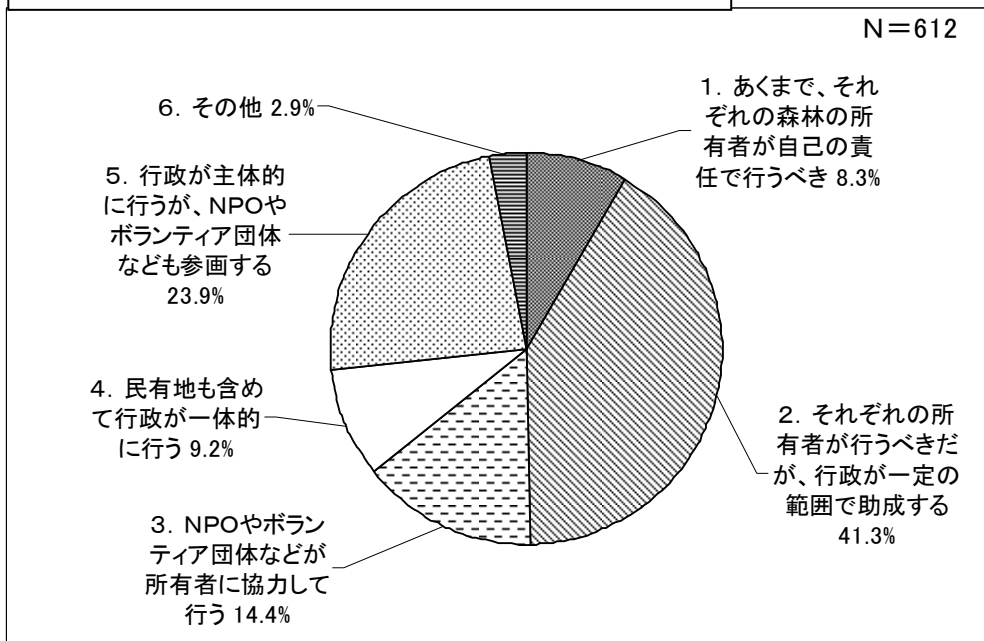
③調査結果抜粋[平成 22 年度実施]



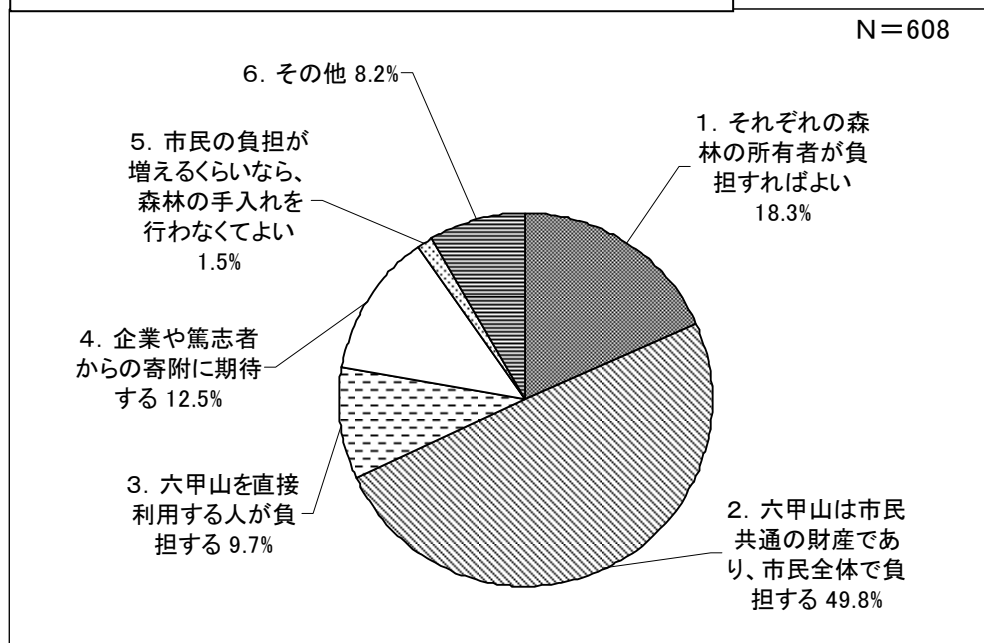
■ 六甲山の果たす役割



■ 六甲山の森の手入れ方法に対する意見



■ 六甲山の森の手入れにかかる費用の負担について



2. 森林に関する状況

(1) 全国的な山地災害の発生

林業作業従事者の高齢化や人材不足で森林荒廃が進む中、近年のゲリラ的豪雨により、山地において大規模な土砂災害が全国的に発生している(広島県庄原市、鹿児島県奄美大島など)。

(2) 自然環境、環境問題に対する市民・企業の意識の高まり

環境保全活動を行う市民団体の存在や、生活における ECO の取組みなど、環境問題に対する市民意識が高まっていると共に、企業の社会貢献活動でも、環境に対する取組みが増えている。

(3) 環境問題への経済活動としての企業参画

近年、排出権取引やバイオマスエネルギーの開発など、環境問題を経済の制約要因ではなく、新たな成長要因と捉え、環境の保全と経済の活性化とを一体化させていく取組みが推進されている。

3. 森林・林業における全国的動向(森林・林業再生に向けた新たな取組[林野庁])

(1) 森林・林業再生プランの策定(平成 21 年 9 月)

「10 年後の木材自給率 50%以上」を目標に、①森林の多面的機能の発揮、②雇用の創出を通じた山村の活性化、③木材利用を通じた低炭素社会の構築などを図る。

(2) 「森林・林業再生プラン」の実現に向けた新たな取組

平成 23 年度を「森林・林業再生元年」をとして、下記の取組を実施

- ・森林計画制度の見直し
- ・適切な森林施業が確実に行われる仕組みの整備
- ・低コスト化に向けた路網整備等の加速化
- ・担い手となる森林事業者の育成
- ・国産材の需要拡大と効率的な加工・流通体制の確立
- ・人材育成(フォレスター)

4. 六甲山系におけるこれまでの取り組み

(1) 国土交通省(六甲砂防事務所)

- ・昭和 13 年発生 of 阪神大水害を契機に設立、主に大規模な砂防事業を実施
- ・対象区域： 水系数 23 水系 流域面積 約 128k m²
- ・事業内容
 - ①砂防堰堤の整備
 - ・六甲山系における土砂災害から国民の生命・財産及び需要交通網等の社会経済基盤の保全
 - ②グリーンベルト事業(国土交通省、兵庫県)
 - ・六甲山系山麓部の防災機能強化を目的に市街地に面した斜面一帯を公有化し、災害に強いまちづくりを進めるとともに、緑豊かな都市環境の保全・創出を図る
(位置) 宝塚市から神戸市須磨区に至る六甲山系南部の山腹斜面全域
 - ・地域住民、学校、NPO 法人、企業等との連携による継続的な森林保全活動
森づくり団体数：市民団体等 24 団体、民間企業 20 団体(H23.5.24 現在)

(2) 環境省

- ・瀬戸内海国立公園として、自然公園法に基づく六甲山自然環境の保全及び指導
（区域）六甲山最高峰（931m）を中心に、東西約 20km 南北約 7km
（規制）①特別保護地区：木竹の破損・植栽、火入れ・たき火、動植物の捕獲・採取など
②特別地域：工作物の新築・改築・増築、木竹の伐採、広告物の設置など

(3) 林野庁（兵庫森林管理署）

- ・六甲山系における国有林の維持管理
- ・森林の持つ多面的な機能の発揮をめざすため、森林を「水土保全林」「森林と人との共生林」「資源の循環利用林」の 3 つの機能類型に区分し、それぞれの機能の充実を図る
（例）堂徳山国有林（中央区北野町）における森林整備

(4) 兵庫県

①六甲治山事務所

- ・昭和 42 年発生 of 六甲災害を契機に設立、主に保安林指定の目的を達成するために行う保安林事業を実施
谷止工、保安林内における森林整備など

②神戸土木事務所

- ・県内の砂防事業を実施（六甲砂防事務所対象区域を除く）
砂防事業、急傾斜地崩壊対策事業、地すべり防止事業 など

③神戸農林水産振興事務所

- ・森林の回復と再生を目指す「新ひょうごの森づくり」、森林の防災機能強化を図る「災害に強い森づくり」などの各種事業を実施
（防災）里山防災林事業 緊急防災林事業
（松くい虫対策）松くい虫防除事業
（里山林整備）みなもとの森整備事業 など

(5) 神戸市（公園砂防部森林整備事務所）

- ・市有林（2,300ha）の保全育成及び森林病虫害の防除
- ・ハイキングコース（主要 66 コース、延長：220km）の整備
- ・自然公園施設、神戸外国人墓地の維持管理
- ・市民・企業参加の森づくり
 - ①こうべ森の小学校：1997 年発足、小学生親子への啓発
 - ②こうべ森の学校：2003 年発足、森林ボランティアの育成
 - ③森の匠：2004 年発足、森の恵みの活用、ログハウス建設
 - ④摩耶の森クラブ：2007 年発足、摩耶山の活性化
 - ⑤森守ボランティア：ハイキングコースの管理会、15 団体
 - ⑥神戸経済同友会の森：兵庫県「企業の森」活動の一環として、市有林約 3ha を管理
 - ⑦こうべ森の文化祭：六甲山で活動する団体間の交流（1 回／年、11 月頃）

- ・その他、「六甲山を活用する会」や「六甲山と市民とのネットワーク」など、多くの市民団体が、様々な活動を行っている。

5. 「六甲山森林整備戦略」の策定

(1) 六甲山の現状

- ・過去の水害や阪神淡路大震災などの災害を経て、多くの治山・砂防事業が行われている。
- ・一方、森林の保全育成に関しては、「木を植えること、伐らないこと」が第一とされてきており、樹木も大きく成長し、樹齢や樹種などの多様性に欠けるまま、大径木化している所もある。
- ・また、六甲山では長い間、林業的な施業はされてきておらず、主に民有林では全体として組織的な森林管理ができていない。

(2) 神戸市マスタープラン等における位置づけ

第5次神戸市基本計画

(ア) 神戸づくりの指針

2025（平成37）年に向けた長期的な神戸づくりの方向性を示す

都市全域を大きく3つに区分しているが、六甲山はその中の「みどりのゾーン」の中核を成す存在として位置付け

具体的には、観光交流の観点やまちの安全や魅力の向上さらには低炭素社会の実現の観点から適切に保全・育成するものと位置付けられている

(イ) 神戸2015ビジョン

5年間（2011～2015）における実行計画。選択と集中により重点化

テーマ(8)持続可能なまちをつくる

重点施策（1）六甲山の緑の保全・育成

- ①六甲山森林整備戦略の策定
- ②森林保全・育成の拡大実施
- ③市民や企業との協働による森づくり
- ④ナラ枯れに対する危機管理体制の確立
- ⑤CO₂吸収源など六甲山の持つ機能・資源の活用推進

神戸市緑の基本計画

施策の展開：みどりのゾーン ～いのちをまもり育む緑～

方針1 六甲山系や帝釈・丹生山系など都市の骨格となっている緑を保全・育成・活用し、市民のくらしや自然環境、美しい景観を守ります

緑の戦略プロジェクト：①緑をまもり育て、未来へつなぐ「六甲山プロジェクト」

その他部門別計画

(ア) 神戸市環境基本計画

先導的な取り組みの推進（9項目）

5. 六甲山における森林保全・育成の推進

(イ) 生物多様性 神戸プラン2020

重点事業（12項目）

1. 六甲山での協働による森林保全・育成の推進

(3) 施策展開の視点

① 民有林を含めた六甲全山での森林整備

- ・整備範囲を人工林から二次林、市有林から民有林へと拡大→民有林の公的関与のあり方

② 国・県・市の役割分担と連携

- ・各機関の整備状況等の情報交換を行い、適切な役割分担を図ることで効率的な森林整備を実施 → 関係機関との定期的な連絡会の開催による情報共有

③ 市民・事業者・行政と森林との関わり

- ・市民、企業が六甲山の森林整備において持続的に参画出来る仕組み作り
- ・多様な主体による情報交換や交流の場としてのプラットフォーム作り

④ 財源対策

- ・税制措置を含めた受益と負担のあり方や、カーボンオフセット制度の検討

⑤ 雇用創出

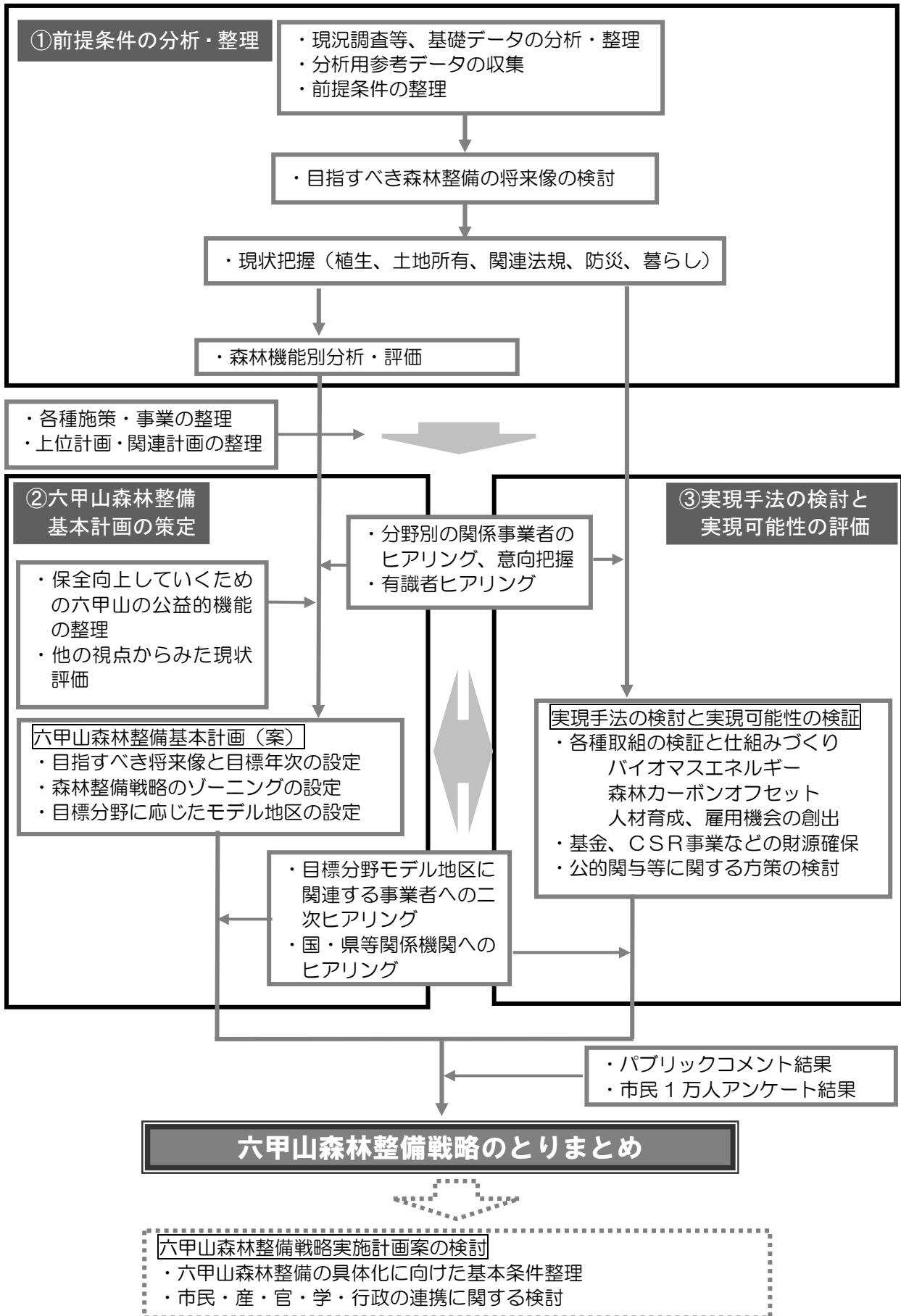
- ・森林整備や、間伐発生材の活用等による民間参入

⑥ 新たな技術開発、研究、人材育成

- ・間伐発生材等のバイオマス資源としての活用の可能性
- ・森林の専門家や指導者の育成

六甲山の「恵み」を「使い・楽しむ」ことで六甲の森を守る仕組みづくりの検討

6. 「六甲山森林整備戦略」の検討フロー



7. 今後のスケジュール

	六甲山森林整備戦略検討会議	連絡会・その他
5月		第1回連絡会 ・六甲山森林整備戦略について ・これまでの六甲山における取組み
6月		
7月		市民1万人アンケートの実施
下旬	第1回検討会議 ・「六甲山森林整備戦略策定」の背景 について ・六甲山の現状について ・目指すべき森林整備の将来像について ・六甲山系における森林機能の評価について ・戦略的ゾーニングの展開イメージについて	
8月		
9月上旬	第2回検討会議 ・関係事業者及び識者へのヒアリング結果報告 ・森林整備戦略実施に向けた取組み及び仕組みづくりの検討 ①森林生産物の活用方策について ・バイオマスエネルギーへの活用方策 ・その他、材料としての利用方策 ②森林カーボンオフセットについて	
10月中旬	第3回検討会議 ・森林整備戦略実施に向けた取組み及び仕組みづくりの検討 ③効率的な森林整備のための工夫 (作業道整備など) ④人材育成、雇用機会の創出	
11月下旬	第4回検討会議 ・森林整備戦略実施に向けた取組み及び仕組みづくりの検討 ⑤基金、CSR事業などの財源確保 ⑥公共負担、公的関与のあり方 ・森林整備戦略ゾーニングの設定 (総合的な防災機能面からの確認)	公園緑地審議会中間報告 フォーラムの開催 第2回連絡会
12月		パブリックコメントの実施
1月		第3回連絡会
下旬	第5回検討会議 ・パブリックコメント、市民1万人アンケート結果報告 ・「六甲山森林整備戦略(案)」について ・六甲山森林整備戦略実施計画のための条件整理	
2~3月		市民1万人アンケートの公表 公園緑地審議会最終報告
23年4月~	「六甲山森林整備戦略」実施計画の検討 ↓	